

メキシコでの子育て

(4) 育児用品、子どもとの生活

海外出産・育児コンサルタント

Care the World 代表

ノーラ・コーリ

【 育児用品 】

メキシコシティのような大都市では育児用品のほとんどが調達できると考えてよいでしょう。地方でも基本的なものは揃っています。ただし、日本人の多くは小児用の医薬品、たとえば子ども用風邪薬、解熱剤、目薬、うがい薬、胃薬、虫刺されの薬などは日本から取り寄せていました。虫刺され予防のスプレーはメキシコにもありますが、臭いがきついということで抵抗があるようでした。おしゃぶりにしても、日本のものは必ずといってよいほどキャップ付きで売られていますが、メキシコのは必ずしも付いていません。さらに素材も日本の方がよいということでした。そのため、日本から調達している多くのものは質や便利さなどの細かいこだわりからのようです。

衣類にも、日本人は素材にこだわりがあるようでした。たとえば赤ちゃんや肌の敏感な子ども達には綿100%を選んでいました。メキシコで売られているものは必ずしもすべてメキシコ製とは限らず、店によっては多少割高でも先進国の輸入製品が販売されていますので、そのようなものを使っている方もいました。輸入製品は高級デパートやショッピングセンターのベビー専門店などで購入できます。

メキシコ政府は母乳育児を奨励しています。病院では新生児のうちから哺乳瓶に慣れないようにコップやスプーンで飲ませているところもあります。しかし、ワーキングマザーも多いため、どうしても哺乳瓶でミルクを与えざるを得ないという人たちも少なくはありません。そのため、粉ミルクはスーパーマーケットや薬局で容易に購入できます。ただし店頭には並んでいる粉ミルクは、店内では容易に開けられないように容器を二重にして棚に並べてありますので、購入の際には店員に外側の容器を開けてもらう必要があります。



粉ミルクの缶は二重にされている

Photo by Nora Kohri

離乳期に与えるベビーフードはスーパーマーケットで購入できます。海外の有名ブランドのものが並んでいました。メキシコの人たちは日本ではもう噛み砕くものを与えている時期にまだバナナをつぶしたり、野菜をペーストにしたりして与えていました。おそらくメキシコでは

離乳期が長いのでしょう。

【 子どもとの生活 — 日本人の場合 】

< 外出 >

メキシコでは歩行者優先という概念はないので、子ども連れで外出する際にはくれぐれも交通事故にあわないように気をつけてください。青信号でもどこから車が飛び出してくるかわからないので、信号に頼らず、周りの車の状況を判断して横断歩道を渡ります。道路は穴だらけでデコボコだったり、マンホールにフタがなかったり、工事をしている周辺でも歩行者への安全な回路の誘導がない場合もあります。常に足元と自分が進む方向を確認しながら歩いてください。多くの人は、赤ちゃんを抱っこして出かけていました。

小さな子どもがいる場合はほとんど車かタクシーでの移動になります。タクシーは信頼できる会社を選んでください。中には危険なタクシーもあります。たとえば運転手が強盗に化けたり、つるんだ仲間がタクシーに乗り込んできたりすることがあります。たいていは金品が目当てなので、命を優先してください。運転手も襲われることがあるので、乗ったら必ずと言ってよいほどすぐにドアをロックします。

地下鉄も便利ですが、基本的には低所得者層の人たちが利用する交通機関です。地下鉄内でものを売ったり、楽器を演奏して稼いだり、子どもにおもちゃを渡して後から代金を請求してきたりします。いらぬものははっきり拒否しましょう。バスも台数が多く頻繁に走っているので便利です。ただし停留所はあつてないようなものなので、乗る時には手を挙げないと止まらなかったり、降りるところがわからないと利用できなかったり、利用の仕方をあらかじめ理解しておかないと利用しにくいでしょう。そして、日本人は目立つので、スリのターゲットになりやすいことから、子ども連れの利用は勧められません。

< 赤ちゃん冷え >

外出の際、メキシコ人はまだ歩かない赤ちゃんでも靴下と靴を履かせます。これは寒いだけでなく、外出する際、赤ちゃんでも身支度を整える習慣からです。それでも一般的に赤ちゃんは冷えにさらさないようにという慣わしがあります。これは「重い血」を持った人に子どもが見られると病気になるという迷信があるため、なるべく赤ちゃんをくるんで「重い血」から守るようにしているようです。

< 野良犬 >

メキシコでは野良犬や野良猫が町をうろうろと歩いている光景によく出くわしました。メキシコ人の中にはクリスマスのプレゼントとして子どもに犬を贈り、犬の世話が負担になると平気で道路に捨てる人もいます。そのようなことから野良犬が増えているようです。子どもは動物好きで、犬にさわろうとしますが、野良犬と判断したら避けて通るようにしましょう。どのよう

Photo by M. Leaverton



メキシコシティの野良犬

な病気をもっているかわかりません。咬まれたらすぐに病院かクリニックへ行ってください。野良犬の多くはたいへん痩せていました。おそらくエサが見つからないのでしょう。よくゴミをあさっていました。何しろ野良犬は人間を襲うケースもあるので、注意が必要です。

< サマータイム >

夏になるとサマータイムが導入されます。これは日本にはない習慣なので、戸惑う方もいらっしゃると思います。夏は日中とても暑く、時には気温が40度近くまで上がりますが、夜になると過ごしやすい気温になります。そこで、夕方涼しくなってから赤ちゃんを連れて外出するとよいでしょう。また夜は9時ごろまで明るいので、子ども達も含めて大人も遅くまで起きている傾向があります。そのため、現地の子どもたちは日中昼寝をし、ランチの時間をずらしたり、遅めの夕食をとったりしています。このパターンが生活時間を乱してしまうと言う日本人母親もいましたが、メキシコでは長年の生活の知恵でシエステ（昼寝）があるほどですから、それを取り入れてみるのもメキシコでの生活を快適に過ごす秘訣かもしれません。

< 使用人 >

メキシコでの子育てで欠かせないのが使用人の存在です。家事代行者はほとんどが女性で「ムチャチャ」と呼ばれています。たいへん安く雇うことができます。多くの日本人家庭では、住み込みではなく、通いで、日中、たいていは夕方まで家事や育児を手伝ってもらっていました。子どもも見ていてくれるので、買い物や、上の子どもの学校へ出向く時などに赤ちゃんを預けていました。ただし、使用人は家庭内に入りますし、子どもを預けるのなら、信頼できる人を雇わなければなりません。そうでないと家のものが無くなったり、すぐに他のいい働き口を探して辞めてしまったりする可能性が高くなります。よい人を選ぶならば、日本人家庭で働いた経験があったり、その家族が転職してしまうという理由で次の職を求めているような人が理想的かもしれません。いずれにせよ、雇うならば必ず紹介で来た人を雇いましょう。紹介者もなく、自ら雇ってくれとくる人はたいていが他の家庭で何かトラブルがあって解雇された人が多いです。

【 子どもとの生活 — メキシコ人の場合 】

< よく手伝う子どもたち >

全体的にはよくしつけがされているという印象を受けました。彼らは小さい頃から人に対して尊敬の気持ちを持つことや友達を大切にすることを教えられるそうです。低所得者層の家庭の子ども達は小さい頃から働いています。おそらく小さいうちに外の世界の厳しさを体験するのでしょうか、よく親の言うことを聞き、手伝いも次から次へとこなしています。

< シングルマザー >

子どもたちがよく手伝う背景にはシングルマザーが多いことにあるようです。シングルマザーが多い理由の一つには男性がアメリカや外国でのよい暮らしを求めて、不法でこれらの国に渡るため一度家を出ると帰ってこないからです。また国民のほとんどがカトリック教徒のため、望まぬ妊娠でも中絶は許されず、父親の認知がない子どもが多いようです。それでもシン

グルマザーは両親を始め、兄弟姉妹、親戚や周りの人たちのサポートを得ながら子どもを育てているので、子どもたちはたくさんの人たちの愛情に囲まれ、決してさみしい思いはしないそうです。そもそもメキシコはマチズモと言って男性が権力を握っている社会なので、家事や子育てはもともと母親の役目です。カトリックの影響もあって、聖母マリアさまをまつことも含め、メキシコの母親は大切にされています。それは母の日の様子からもうかがわれ、この日はレストランやデパートがおおにぎわいです。

< パーティー >

メキシコ人は大家族という印象を受けました。カトリック教徒としてのイベントも多く、クリスマスを始め、子どもの洗礼式、誕生日、三賢者の日、などイベントのたびに親族が集まって祝います。特に子どもの誕生日パーティーは裕福な人ほど盛大に振舞い、低所得者層の人たちでも陽気に派手に祝います。誕生日パーティーのハイライトではピニャータです。キャンディーやおもちゃの入った星型やキャラクターものを吊るして、子どもたちが順番に棒で叩き割ります。叩き割って出てきたものを競って拾います。また、富裕層の家族であれば、庭に空気でふくらました遊具を設置したり、ピエロを呼んだり、フェイスペインティングの人を雇ったりします。

幼稚園では通常、親同士の関わりあいがないので、招待されても誰のパーティーであるかわからないこともあります。そのため、プレゼントを用意するのに女の子か男の子なのか名前だけではわからないので日本人は戸惑うようです。

開始時間ですが、メキシコでは 12 時半と言われたら、それは「その時間以降ならいつ来てもいいですよ」という意味が含まれているので、1 時間遅れでも OK ですし、メキシコタイムに添って行けばよいでしょう。



ピニャータを割る様子

また、招待された時刻を見て、たとえば 12 時半ならおそらくランチが出るのだろうという推測は必ずしも当たりません。食べものはたいてい出ますが、それがランチとかそれが夕食とかいう名前はつきません。ホスト側の時間に合わせて出た食事をみんなが好きな時に好きなものを好きなだけ食べるといった具合です。メキシコ人と日本人とでは時間のコンセプトが大幅に違います。そのためか日本人はメキシコでの生活を始めると、彼らは時間にルーズだと批判をしたり、3 時にランチを出すのはおかしいと思ったりしますが、それは文化の違いと受け止めましょう。

Photo by Jim Phypers

< クリスマス >

クリスマスも大イベントです。普段は T シャツとズボンという軽装の子ども達もクリスマスはしっかりフォーマルな服を装います。男の子は蝶ネクタイ、女の子はフリ

フリのドレスを着ます。クリスマスイブは夜の 8 時頃に教会のミサに行き、そのあと、家族と親戚がいっせいに集まってディナーを共にします。親戚総出ということばがぴったりのように 100 人近くが集まります。その際のディナーも夜中の 12 時をゆうにまわって始まることもありますので、子どもたちにはしっかりと昼寝をさせて、ミサの前になにか食べておかないと夜までもちません。

* * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * *

これでメキシコでの出産と子育ては終了となります。シリーズを通して読んでいただきありがとうございました。次回はフィンランドを予定しております。乞うご期待。